



## **PLUMTREE PUBLISHER**

# **インストールおよびアップグレード ガイド**

Plumtree Publisher 6.2

2005 年 12 月改訂

この資料の内容は断り無く変更する場合がありますのでご了承ください。Plumtree Software, Inc. は、このマニュアルに関連する事項 ( このマニュアルに記述されているソフトウェアの商品価値や特定の使用目的に対する責任などを含むがこれに限定されない ) について、明示または黙示にかかわらずいかなる保証も行いません。このマニュアルにおける誤りまたはこのマニュアルの提供、有用性、利用等に関連または起因する損害について、Plumtree Software, Inc. はいかなる責任も負いません。

Copyright © 2001-2005 Plumtree Software, Inc. All rights reserved. Plumtree、Plumtree のロゴ、Plumtree Publisher、およびその他すべてのプラムツリーの製品名およびスローガンは、Plumtree Software, Inc. または米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の製品名やスローガンは、各所有者に帰属する商標または登録商標です。

未出版：米国の著作権法の下で著作権が保護されています。著作権情報は、著作権侵害の予防手段として記載しているものであり、出版または公開を暗示するものではありません。

このソフトウェアには、プラムツリー ソフトウェアの秘密情報およびトレード シークレットが含まれています。このマニュアルの使用、公開、または複製は、プラムツリー ソフトウェアの事前の明示的な書面による許可が無い限り禁止します。

このライセンス ソフトウェアおよびマニュアルは、FAR Section 12.212 および DFARS Section 227.7202 で規定されている「commercial computer software ( 商用コンピュータ ソフトウェア )」、および「commercial computer software documentation ( 商用コンピュータ ソフトウェア マニュアル )」とみなされます。

ライセンス情報の詳細については、製品リリース パッケージのアトリビュション ファイルを参照してください。

本書に関してご意見がある場合は電子メールを次のアドレスに送付してください。documentation@plumtree.com

# 目次

1	ようこそ .....	1-1
	記述方法 .....	1-1
	このマニュアルで使用しているアイコンについて .....	1-2
	プラムツリーの資料 .....	1-2
2	Plumtree Publisher の概要 .....	2-1
3	インストールの準備手順 .....	3-1
	ハードウェアおよびソフトウェアの要件 .....	3-1
	必要な管理ユーザー権限 .....	3-2
	Publisher 用のデータベースおよびデータベース ユーザーの作成 .....	3-2
	SQL Server 上でのデータベースおよびデータベース ユーザーの作成 .....	3-3
	Oracle 上でのデータベースおよびデータベース ユーザーの作成 .....	3-4
4	Publisher のインストール .....	4-1
5	インストール後の手順 .....	5-1
	ワークフロー データベース スキーマのインポート .....	5-1
	SQL Server でのワークフロー データベース スキーマの作成 .....	5-1
	Oracle でのワークフロー データベース スキーマの作成 .....	5-2
	Publisher 移行パッケージのインポート .....	5-2
	Plumtree Publisher およびワークフローの起動 .....	5-3
	Publisher のインストールの確認 .....	5-4
	発行済みコンテンツ ポートレットの移行パッケージのインポート .....	5-4
6	コンテンツ サーバーから Publisher へのアップグレード .....	6-1
	アップグレード手順 .....	6-1
	ポータル データベースのウェブ サービス UUID のアップグレード .....	6-4
	コンテンツ サーバー 5.x および 6.0 アップグレードの追加情報 .....	6-4
7	トラブルシューティング .....	7-1
	ログ ファイルの参照 .....	7-1
	データベース設定ファイル .....	7-1
	Publisher の再設定 .....	7-2
	予期せぬ結果の分析 .....	7-2
A	導入設定ワークシート .....	A-1
B	クラスタリング .....	B-1
	個別の発行済みコンテンツを Publisher から完全設定で導入する手順 .....	B-1
C	インストーラの properties ファイル .....	C-1



# 1 ようこそ

このマニュアルでは、Plumtree Publisher のインストール方法および導入方法について説明します。各章で説明するインストールの基本手順は以下のとおりです。

1. Publisher コンポーネントの機能について理解する。詳細については、[第2章、「Plumtree Publisher の概要」](#)を参照してください。
2. インストールの準備を行う（リリース ノートの参照、導入システムのホスト コンピュータの準備、互換性のある必須ソフトウェアの設定など）。詳細については、[第3章、「インストールの準備手順」](#)を参照してください。
3. Publisher のホスト コンピュータ、およびポータル Image Service のホスト コンピュータにプラムツリー ソフトウェアをインストールする。詳細については、[第4章、「Publisher のインストール」](#)を参照してください。
4. インストール後に必要な手順を実行する（Publisher の導入の確認およびプラムツリー ポータルへの Publisher の登録など）。詳細については、[第5章、「インストール後の手順」](#)を参照してください。

既存のコンテンツ サーバーを Plumtree Publisher にアップグレードする場合は、[第6章、「コンテンツ サーバーから Publisher へのアップグレード」](#)から作業を始めてください。

この章の残りの部分では、本書で使用されている記述方法および他に参照できるプラムツリーの資料およびリソースについて説明します。

## 記述方法

このマニュアルでは、下記の記述方法を使用します。

表 1-1：記述方法

項目	記述方法	例
<ul style="list-style-type: none"><li>• ファイル名</li><li>• フォルダ名</li><li>• 画面要素</li></ul>	太字	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>Procedures.doc</b> をポータルにアップロードします。</li><li>• <b>General</b> フォルダを開きます。</li><li>• 変更内容を保存するには、[ <b>変更を適用</b> ] をクリックします。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• 入力するテキスト</li></ul>	コンピュータ フォント	<ul style="list-style-type: none"><li>• コミュニティの名前に Marketing と入力します。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• プラムツリー オブジェクト名の例</li></ul>	斜め体	<ul style="list-style-type: none"><li>• 図 5 のナレッジディレクトリの例は、<i>Human Resources</i> フォルダです。</li></ul>
入力する変数	コンピュータ フォント、斜め体	ポートレット サーバーのベース URL を入力してください。 例： <code>http://my_computer/</code>

## このマニュアルで使用しているアイコンについて

このマニュアルでは、下記のアイコンを使用します。



**注意:**「注意」アイコンは、段落の内容に関連するヒント、ベスト プラクティス、または追加情報を示します。



**重要:**「重要」アイコンは、段落の内容に関連する重要な情報（警告を含む）を示します。

## プラムツリーの資料

この節では、プラムツリーが提供している資料およびリソースについて説明します。

表 1-2: プラムツリーの資料およびリソース ( 2 の 1 シート )

リソース名	説明
導入ガイド	ポータルをインストールまたは設定する前に、『Plumtree Application Suite G6 導入ガイド』を参照し、ポータル コンポーネントのインストールのために行う必要のあるホスト コンピュータの準備、ポータルによる通信のためのセキュリティ モード、管理権限の委任、およびポータルから利用できるようにするドキュメントのソースとタイプ等、ポータル システムに関する明確なプランを立ててください。
管理者用ガイド	ポータル管理者およびコンテンツ マネージャーを対象としたマニュアルです。Plumtree Publisher とそのコンポーネントの設定方法および管理方法が記載されています。 Plumtree Product Center から電子形式 (PDF) で入手できます。
リリース ノート	ポータル管理者用のファイルです。そのリリースに含まれている新しい機能や既知の問題に関する情報が含まれています。 Plumtree Product Center から電子形式 (HTML) で入手できます。
開発者用ガイド、クイック スタートガイド、API 関連資料、およびサンプル コード	開発者用の資料です。これらには、エンタープライズ ウェブのユーザー インタフェースおよび機能のカスタマイズ方法の説明が記載されています。 Plumtree Support Center または Developer Center から入手可能なプロダクト インストール パッケージに含まれています。
オンライン ヘルプ	オンライン ヘルプは、ポータルのすべてのレベルのユーザーが利用できます。Plumtree Publisher のユーザー インタフェースの説明および Publisher で作業を行うための詳細手順が記載されています。 オンライン ヘルプにアクセスするには、すべての Publisher ページまたはダイアログ ボックスの右上の端にある 🗉 [ヘルプ] をクリックしてください。

表 1-2 : プラムツリーの資料およびリソース ( 2 の 2 シート )

リソース名	説明										
Plumtree Support Center	<p>Plumtree Support Center は、プラムツリー製品に関する技術情報の総合的なリポジトリです。Support Center では、製品およびドキュメントへのアクセス、ナレッジベースの記事の検索、最新のニュースや情報の参照、サポートコミュニティへの参加、トレーニングの受講、プラムツリー関連のニーズに適合するツールの入手を行うことができます。Support Center には次のコミュニティが含まれています。</p> <p><b>Technical Support Center</b> サポート問題や機能要求の提出および追跡、ナレッジベースの検索、サービスパックおよびホットフィックスのダウンロード等を行うことができます。</p> <p><b>Deployment Center</b> プラムツリーアプリケーションスイートの導入の展開、促進、および管理のためのツールの検索を行うことができます。同僚との戦略的なビジネスおよび技術目標への取り組み、アプリケーションのベストプラクティスの習得、ポータルの起動例のダウンロード、投資回収率の算出を行うことができます。</p> <p><b>Product Center</b> プロダクトのダウンロード、リリースノートへの参照、最新のプロダクト資料へのアクセスが可能です。</p> <p><b>Developer Center</b> 開発者用のツールや資料をダウンロードしたり、開発プロジェクトに対してサポートを得たり、ディスカッションフォーラムを通じて他の開発者と連絡を取ることができます。</p> <p><b>Education Center</b> トレーニングコースに関する情報の入手、トレーニングクレジットの購入、受講するための登録を行うことができます。</p> <p>次のサイトにログインしても Support Center が表示されない場合は、アクセス権を得るために <a href="mailto:support@plumtree.com">support@plumtree.com</a> にお問い合わせください。 <a href="http://portal.plumtree.com">http://portal.plumtree.com</a></p>										
技術サポート	<p>上記のリソースを使用しても問題を解決できない場合は、プラムツリー技術サポートにお問い合わせください。弊社のスタッフが、24 時間 365 日体制でお客様の技術サポートニーズに対応致します。</p> <p>電子メール: <a href="mailto:support@plumtree.com">support@plumtree.com</a></p> <p>電話番号:</p> <table> <tr> <td>米国およびカナダ</td><td>+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)</td></tr> <tr> <td>アジア パシフィック</td><td>+61 2.9931.7822</td></tr> <tr> <td>ヨーロッパおよび英国</td><td>+44 (0)1628 589124</td></tr> <tr> <td>フランス</td><td>+33 1.46.91.86.79</td></tr> <tr> <td>シンガポール</td><td>+65 6832.7747</td></tr> </table>	米国およびカナダ	+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)	アジア パシフィック	+61 2.9931.7822	ヨーロッパおよび英国	+44 (0)1628 589124	フランス	+33 1.46.91.86.79	シンガポール	+65 6832.7747
米国およびカナダ	+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)										
アジア パシフィック	+61 2.9931.7822										
ヨーロッパおよび英国	+44 (0)1628 589124										
フランス	+33 1.46.91.86.79										
シンガポール	+65 6832.7747										





## 2 Plumtree Publisher の概要

ポータル ユーザーは、Plumtree Publisher を使用して、ポータル ページだけでなく、イントラネット、エクストラネット、およびウェブ リポジトリにもコンテンツを提出できます。Plumtree Publisher コンポーネントは、ポータルのユーザー管理、ドキュメント管理、および検索コンポーネントと統合されており、コンテンツを包括的に一元管理することが可能です。

Plumtree Publisher には、以下のコンポーネントが含まれています。

コンポーネント	オブジェクト
Publisher	Publisher は、ウェブ発行を可能にする Java アプリケーションです。
Publisher データベース	このデータベースには、Publisher 内のコンテンツのメタデータが格納されます。
ワークフロー	ワークフローにより、コンテンツのワークフロー機能および発行機能を管理することが可能です。ポータルのブランディングのみを目的に Publisher のライセンスを保持し Publisher をインストールする場合、ワークフローは必要ないため、無効にすることができます。ワークフローを無効にする方法については、ナレッジベース記事番号 DA_222501「Enabling and Disabling Workflow Server」を参照してください。
ドキュメント リポジトリ サービス	ドキュメント リポジトリ サービスは、大きいファイルにも対応可能な中央格納領域を提供します。このサービスは、Plumtree Collaboration から使用します。
発行ターゲット	発行済みコンテンツを格納するようにウェブ サーバーを設定します。
検索ライブラリ	Publisher はプラムツリー検索によって、発行されたコンテンツをインデックスします。
Image Service	Image Service は、イメージ、JavaScript、CSS などの静的コンテンツを配信し、プラムツリー システムから使用できるようにします。
Publisher ウェブ サービス	Publisher には以下の標準ウェブ サービスが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Publisher 管理</li><li>• ワークフロー内のコンテンツ アイテム</li><li>• Publisher コンテンツ サービス</li><li>• Publisher ゲートウェイ</li><li>• Publisher KD</li><li>• コンテンツの提出</li><li>• 最近使われたコンテンツ</li><li>• 発行済みコンテンツ ウェブ サービス</li><li>• 作業リスト</li></ul>



**重要：**ポータル導入では、ブランディング エンジン機能は、Plumtree Publisher のブランディング機能に置き換わります。このガイドの手順に従って、ポータル導入システムに適合する Publisher のブランディング機能をインストールしてください。ライセンス条件については、プラムツリーの営業担当者にお問い合わせください。

Publisher では次の言語がサポートされています。

- 中国語（簡体字）
- 中国語（繁体字）
- オランダ語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ポルトガル語
- スペイン語

# 3 インストールの準備手順

Plumtree Publisher のインストールを実行する前に、以下に示す手順に従い、Plumtree Publisher の導入用にネットワークとホスト コンピュータを準備します。

1. 導入の進め方に影響をもたらす可能性のある互換性の問題、既知の問題、および回避策に関する情報については、製品のリリース ノートを参照してください。リリース ノートは、製品パッケージのトップレベル ディレクトリにあります。
2. 導入の要件を満たすホスト コンピュータおよびソフトウェアを用意します。詳細については、[「ハードウェアおよびソフトウェアの要件」](#)を参照してください。
3. [付録 A、「導入設定ワークシート」](#)にある導入コンポーネントの設定用ワークシートに情報を記入します。
4. 導入コンポーネントへの管理アクセスがあることを確認します。詳細については、[3-2 ページの「必要な管理ユーザー権限」](#)を参照してください。
5. Publisher およびワークフローに関連付けるデータベースおよびユーザーを作成します。詳細については、[3-2 ページの「Publisher 用のデータベースおよびデータベース ユーザーの作成」](#)を参照してください。

## ハードウェアおよびソフトウェアの要件

Plumtree Publisher に必要なハードウェア、オペレーティング システムおよびソフトウェアの条件を以下の表にまとめます。



**重要：**IPv6 はサポート されていません。この製品をインストールする前に、IPv6 が無効になっていることを確認してください。

コンポーネント	要件
Publisher ホスト コンピュータ	<div>ハードウェア</div> <ul style="list-style-type: none"><li>• デュアル 1.8GHz 以上、L2 キャッシュ 2MB</li><li>• メモリ 1GB</li><li>• ディスク容量 40GB</li></ul> <div>オペレーティング システム</div> <ul style="list-style-type: none"><li>• Windows 2003 Server SP1</li><li>• x86 搭載の Red Hat Enterprise Linux 3 Update 3 (ES および AS)</li><li>• x86 搭載の SUSE Linux 9</li><li>• POWER3、POWER4、POWER5 搭載の AIX 5.3</li><li>• SPARC 搭載の Solaris 8 および 9</li></ul>

コンポーネント	要件
データベース サーバー ホスト コンピュータ	<b>ソフトウェア</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft SQL Server 2000 SP3a (Publisher を Windows にインストールする場合のみ)</li> <li>Oracle 9i (デフォルト) または Oracle RAC 設定</li> <li>Oracle 10g (デフォルト) または Oracle RAC 設定</li> </ul>
ブラウザ要件	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>管理ユーザー</b> : Internet Explorer 5.5 または 6.0</li> <li><b>寄稿を行うユーザー</b> : Firefox 1.0、Netscape 7.2</li> <li><b>閲覧を行うユーザー</b> : Internet Explorer 5.0、Netscape 4.71、Safari 1.2</li> </ul>
対応ポータル バージョン	このリリースの Plumtree Publisher は、Plumtree Foundation 6.0 との互換性があります。サポートされているバージョンの最新のリストについては、Support Center の Interoperability ページを参照してください。

## 必要な管理ユーザー権限

Plumtree Publisher をインストールするには、ローカル管理者としてホスト コンピュータにログインする必要があります。

Publisher の導入のために、データベース サーバーおよびポータル データベースを設定するには、データベース管理者としてデータベース サーバーにログインする必要があります。

プラムツリー データベース内にオブジェクトを作成するためには、以下のユーザーとしてログインできる必要があります。

- プラムツリー ポータル データベース ユーザー。ポータル データベース ユーザーに関する詳細については、『PLUMTREE FOUNDATION インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。
- Publisher データベース ユーザー。[3-2 ページの「Publisher 用のデータベースおよびデータベース ユーザーの作成」](#)を参照してください。
- ワークフロー データベース ユーザー。[3-2 ページの「Publisher 用のデータベースおよびデータベース ユーザーの作成」](#)を参照してください。

## Publisher 用のデータベースおよびデータベース ユーザーの作成

この節の以下のトピックでは、Publisher およびワークフローに必要なデータベース オブジェクトの作成方法について説明します。

- [3-3 ページの「SQL Server 上でのデータベースおよびデータベース ユーザーの作成」](#)
- [3-4 ページの「Oracle 上でのテーブルスペースおよびデータベース ユーザーの作成」](#)

## SQL Server 上でのデータベースおよびデータベース ユーザーの作成

Publisher データベース ユーザーおよびデータベースを作成するには、次の手順に従います。

1. 以下のプロパティ設定で Publisher データベースを作成します。
  - 大文字と小文字が区別されないようにデータベース サーバーを設定します。
  - [付録 A、「導入設定ワークシート」](#)のワークシートに記入した名前を使用してデータベースを作成します。
  - データベースの初期サイズを設定します。比較的小さなインストール システムの場合は、少なくとも 100MB のデータベースを設定してください。20,000 人のユーザーを有する大規模なエンタープライズの場合は、1GB 程度のデータベースを設定してください。
2. Publisher データベース ユーザーを作成します。
  - a. [ **スタート | プログラム | Microsoft SQL Server | Enterprise Manager** ] を選択して Enterprise Manager を起動します。
  - b. ナビゲーション枠でオブジェクトを展開し、[ **セキュリティ** ] フォルダのサブフォルダを表示します。
  - c. [ **ログイン** ] アイコンを右クリックし、[ **新規ログイン** ] をクリックします。
  - d. [ **SQL Server ログインのプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、[付録 A、「導入設定ワークシート」](#)のワークシートに記入した、コンテンツ サーバーのデータベース ユーザーのユーザー名を入力します。
  - e. [ **認証** ] エリアで、[ **SQL Server 認証** ] を選択して、対応するパスワードを入力します。
  - f. [ **全般** ] タブの [ **規定値** ] で、Publisher データベースを選択します。
  - g. [ **データベース アクセス** ] タブをクリックします。
  - h. [ **このログインがアクセスできるデータベースを指定します** ] で、Publisher データベースを選択します。
  - i. [ **データベース ロール ( データベース名 )** ] ボックスで、[ **public** ] および [ **db\_owner** ] を選択します。
  - j. [ **OK** ] をクリックします。
  - k. パスワードを確認して、プロセスを完了します。
  - l. ナビゲーション枠で、オブジェクトを展開して Publisher データベースを表示し、Publisher データベースを右クリックして [ **プロパティ** ] を選択します。
  - m. [ **権限** ] タブをクリックし、Publisher データベース ユーザーにすべての権限を付与します。

ワークフロー データベース ユーザーおよびデータベースを作成するには、次の手順に従います。

1. 以下のプロパティ設定でワークフロー データベースを作成します。
  - 大文字と小文字が区別されないようにデータベース サーバーを設定します。
  - [付録 A、「導入設定ワークシート」](#)のワークシートに記入した名前を使用してデータベースを作成します。
  - データベースの初期サイズを設定します。比較的小さなインストール システムの場合は、少なくとも 100MB のデータベースを設定してください。20,000 人のユーザーを有する大規模なエンタープライズの場合は、1GB 程度のデータベースを設定してください。
2. ワークフロー データベース ユーザーを作成します。
  - a. [ **スタート | プログラム | Microsoft SQL Server | Enterprise Manager** ] を選択して Enterprise Manager を起動します。
  - b. ナビゲーション枠でオブジェクトを展開し、[ **セキュリティ** ] フォルダのサブフォルダを表示します。
  - c. [ **ログイン** ] アイコンを右クリックし、[ **新規ログイン** ] をクリックします。
  - d. [ **SQL Server ログインのプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、[付録 A、「導入設定ワークシート」](#)のワークシートに記入した、ワークフロー サーバーのデータベース ユーザーのユーザー名を入力します。

- e. [ 認証 ] エリアで、[ **SQL Server 認証** ] を選択して、対応するパスワードを入力します。
- f. [ **全般** ] タブの [ 規定値 ] で、ワークフロー データベースを選択します。
- g. [ **データベース アクセス** ] タブをクリックします。
- h. [ **このログインがアクセスできるデータベースを指定します** ] で、ワークフロー データベースを選択します。
- i. [ **データベース ロール ( データベース名 )** ] ボックスで、[ **public** ] および [ **db\_owner** ] を選択します。
- j. [ **OK** ] をクリックします。
- k. パスワードを確認して、プロセスを完了します。
- l. ナビゲーション枠で、オブジェクトを展開してワークフロー データベースを表示し、ワークフロー データベースを右クリックして [ **プロパティ** ] を選択します。
- m. [ **権限** ] タブをクリックし、ワークフロー データベース ユーザーにすべての権限を付与します。

## Oracle 上でのテーブルスペースおよびデータベース ユーザーの作成

Publisher データベース ユーザーおよびワークフロー データベース ユーザーを作成するには、次の手順に従います。

1. Foundation データベース サーバーのホスト コンピュータで、Oracle Enterprise Manager Console を開きます。
2. ポータル データベースのインスタンスにログインし、Publisher 用の新しいテーブルスペースを作成します。
3. 新しく作成された Publisher のテーブルスペースの格納容量を拡大します。
  - a. Publisher のデータ ファイルを選択します。
  - b. [ **Storage** ] タブをクリックします。
  - c. [ **Automatically extend data file** ] をクリックします。
4. [Security] で、[付録 A、「導入設定ワークシート」](#)のワークシートに記入した Publisher データベース ユーザーのユーザー名を持つ新しいユーザーを作成します。
5. そのユーザーに、新しく作成された Publisher のテーブルスペースに対するデフォルトの所有権を設定します。
6. ユーザーに **Resource** の役割を追加します。
7. ワークフロー用の新しいテーブルスペースを作成します。
8. 新しく作成されたワークフローのテーブルスペースの格納容量を拡大します。
  - a. ワークフローのデータ ファイルを選択します。
  - b. [ **Storage** ] タブをクリックします。
  - c. [ **Automatically extend data file** ] をクリックします。
9. [Security] で、[付録 A、「導入設定ワークシート」](#)のワークシートに記入したワークフロー データベース ユーザーのユーザー名を持つ新しいユーザーを作成します。
10. そのユーザーに、新しく作成されたワークフローのテーブルスペースに対するデフォルトの所有権を設定します。
11. ユーザーに **Resource** の役割を追加します。

# 4 Publisher のインストール

この章では、Plumtree Publisher ソフトウェアのインストール方法について説明します。Publisher をアップグレードする場合は、[第 6 章、「コンテンツ サーバーから Publisher へのアップグレード」](#)を参照してください。



**注意：**以下に述べる手順は、Publisher を Windows、UNIX および Linux にインストールする場合のものです。インストール手順がオペレーション システムによって異なる場合は、随時付記します。

Plumtree Publisher ソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。

1. インストールの準備手順が済んでいることを確認します。[第 3 章、「インストールの準備手順」](#)を参照してください。
2. 別のコンピュータに Image Service がインストールされている場合、そのコンピュータでもインストーラを実行する必要があります。インストール ウィザードで、インストールするコンポーネントの選択を求められた場合は **[Custom]** を選択します。Publisher コンポーネントを Publisher のホスト コンピュータにインストールします。また、Image Service をホストするコンピュータでインストーラを実行する場合は、Image Service コンポーネントをインストールします。
3. Publisher を導入するホスト コンピュータに、ローカル管理者としてログインします。
4. インストーラの起動に使用するディレクトリに、インストーラ ファイル (Windows の場合は **PlumtreePublisher\_v6-2.exe**、UNIX および Linux の場合は **PlumtreePublisher\_v6-2**) をコピーします。
5. 不要なアプリケーションやウィンドウをすべて閉じます。
6. 以下のファイルをダブルクリックして、インストール ウィザードを起動します。  
**PlumtreePublisher\_v6-2.exe / PlumtreePublisher\_v6-2** ファイル
7. [付録 A、「導入設定ワークシート」](#)の設定ワークシートに記入した設定に従って、以下の表に示すインストール ウィザードのページに情報を入力します。

ウィザードのページ	説明
[License Agreement]	ライセンス契約を確認し、承諾する必要があります。
[Choose Components]	[Publisher] または [Image Service] ファイルを選択します。ワークフローおよび Publisher の検索ライブラリは、Publisher と共に自動的にインストールされます。カスタム インストールを選択すると、Publisher と Image Service ファイルを別々にインストールできます。
[Configuration]	完全設定、または発行済みコンテンツ設定を選択します。発行済みコンテンツ設定を選択した場合は、発行済みコンテンツへのリダイレクトに関する Publisher インストールのみを実行できます。
[Installation Folder]	Publisher のインストール先としてデフォルトのインストール フォルダを選択するか、または別のフォルダを指定します。
[Application Host and Port]	Publisher のウェブ コンポーネントが要求を処理するのに使用する完全修飾ドメイン名およびポート番号を入力します。コンポーネントが http を使用するか https を使用するかについても指定します。 ホストの例：contentserver.mycompany.com デフォルト ポート：7087

ウィザードのページ	説明
[Publisher Database]	<p>Publisher が使用するデータベースとして、SQL Server または Oracle を選択します。</p> <p><b>注意：</b>Windows の場合のみ選択可能です。UNIX および Linux の場合は、Oracle しか選択できません。</p>
[Publisher Connection Information]	<p>データベース接続情報を入力します。</p> <p>SQL Server のデフォルト ポート：1433</p> <p>Oracle のデフォルト ポート：1521</p>
[Workflow Database]	<p>ワークフローが使用するデータベースとして、SQL Server または Oracle を選択します。</p> <p><b>注意：</b>Windows の場合のみ選択可能です。UNIX および Linux の場合は、Oracle しか選択できません。</p>
[Workflow Database Connection Information]	<p>データベース接続情報を入力します。</p> <p>SQL Server のデフォルト ポート：1433</p> <p>Oracle のデフォルト ポート：1521</p>
[Portal Server Database]	<p>Publisher が使用するデータベースとして、SQL Server または Oracle を選択します。</p> <p><b>注意：</b>Windows の場合のみ選択可能です。</p>
[Portal Server Database Connection Information]	<p>データベース接続情報を入力します。</p> <p>SQL Server のデフォルト ポート：1433</p> <p>Oracle のデフォルト ポート：1521</p>
[Image Service]	<p>Image Service の情報を入力します。デフォルトの場所は次のとおりです。</p> <p>Windows の場合：C:\Program files\Plumtree\ptimages</p> <p>UNIX または Linux の場合：/opt/plumtree/ptimages</p>
[Published Content]	<p>発行済みコンテンツに、デフォルトの設定を使用するかカスタム設定を使用するかを選択します。フォルダの場所と URL はデフォルトの場所が表示されています。Publisher は、発行済みコンテンツ URL を使用して発行済みコンテンツにアクセスします。Publisher が発行したコンテンツは、発行済みコンテンツ フォルダに格納されます。</p> <p>発行済みコンテンツ URL：http://&lt;computer_name&gt;:&lt;port&gt;/publishedcontent</p> <p>発行済みコンテンツ フォルダ (Windows)：&lt;install_root&gt;\ptcs\publishedcontent</p> <p>発行済みコンテンツ フォルダ (UNIX および Linux)：/opt/plumtree/ptcs/publishedcontent</p>
[Custom Published Content Configuration]	<p>前のページでデフォルト設定を選択した場合、このページは表示されません。カスタム設定を選択した場合は、このページで発行済みコンテンツ URL および発行済みコンテンツ フォルダの場所を指定します。</p>
[Document Repository Service Host and Port Number]	<p>ポータル ドキュメント リポジトリ サービスの完全修飾ドメイン名およびポート番号を入力します。</p> <p>ホストの例：doc-repository.mycompany.com</p> <p>デフォルト ポート：8020</p>



ウィザードのページ	説明
[Search Service Host and Port Number]	検索サービスの完全修飾ドメイン名およびポート番号を入力します。 ホストの例：searchhost.mycompany.com デフォルト ポート：15244
[SMTP Mail Server Information]	Publisher のイベントの SMTP 通知を有効にするには、SMTP サーバー情報およびアドレス情報を入力します。ワークフロー作業の割り当てのための電子メール通知に使用する SMTP サーバーのホスト名、および管理者の電子メール アドレスを入力します。 例：mail.mycorp.com、portaladmin@mycorp.com
[Authentication Information]	ポータル サーバーが Publisher に接続する際に使用する認証 ID およびパスワードを指定します。 デフォルトの認証 ID：authenticationid <b>注意：</b> デフォルトの ID を別の ID に変更することも可能です。
[Default Language]	Publisher アイテムを検索する際に使用する言語を選択します。

8. **[Install]** をクリックして、インストールを開始します。
9. インストーラを終了するには、**[Done]** をクリックします。
10. Windows の場合は、コンピュータを再起動します。再起動しないと、PATH の環境変数が反映されないことがあります。UNIX および Linux の場合は再起動の必要はありません。



# 5 インストール後の手順

プラムツリーのインストーラを実行した後、次の手順を行います。



**重要：**下記の手順 2 で **publisher.pte** ファイルをインポート するまでは、Publisher アプリケーションを起動しないでください。

1. ワークフロー データベース スキーマをワークフロー データベースにインポートします。詳細については、[5-1 ページの「ワークフロー データベース スキーマのインポート」](#)を参照してください。
2. Publisher オブジェクトをポータルに登録します。詳細については、[5-2 ページの「Publisher 移行パッケージのインポート」](#)を参照してください。
3. Publisher およびワークフローを起動します。詳細については、[5-3 ページの「Plumtree Publisher およびワークフローの起動」](#)を参照してください。
4. 診断ツールを実行し、Publisher のコンポーネントとポータルの間で接続が確立されていることを確認します。詳細については、[5-4 ページの「Publisher のインストールの確認」](#)を参照してください。
5. **published\_content\_portlets.pte** ファイルをインポートします。このファイルは、ポートレットを作成するために使用できるテンプレートを提供します。詳細については、[5-4 ページの「発行済みコンテンツ ポートレットの移行パッケージのインポート」](#)を参照してください。

## ワークフロー データベース スキーマのインポート

Publisher ソフトウェアのインストール後、以下のいずれかの手順に従ってワークフローのスキーマを作成します。

- [5-1 ページの「SQL Server でのワークフロー データベース スキーマの作成」](#)
- [5-2 ページの「Oracle でのワークフロー データベース スキーマの作成」](#)

Publisher データベースに関しては、インストール後の設定は特に必要ありません。

### SQL Server でのワークフロー データベース スキーマの作成

ワークフロー スキーマを作成するには、次の手順に従います。

1. Publisher のホスト コンピュータの **C:\Program Files\plumtree\ptworkflow\6.2\sql\mssql\create\_schema.sql** ファイルをワークフロー データベースのホスト コンピュータにコピーします。
2. ワークフロー データベースのホスト コンピュータで、SQL Server Enterprise Manager を開き、ワークフロー データベース ユーザーとしてワークフロー データベースにログインします。ワークフロー データベースおよびデータベース ユーザーについては、[3-3 ページの「SQL Server 上でのデータベースおよびデータベース ユーザーの作成」](#)を参照してください。
3. **create\_schema.sql** スクリプトを開き、実行します。
4. スクリプトの実行後、ワークフローのテーブルスペースを開き、スキーマのテーブルが正しく作成されていることを確認してください。

## Oracle でのワークフロー データベース スキーマの作成

ワークフロー用に Oracle データベースを設定するには、次に説明するように、データベース スキーマを作成し、カーソルの最大数を増やしてください。

ワークフロー サーバー スキーマを作成するには、次の手順に従います。

1. Publisher のホスト コンピュータのスクリプト ファイルを、ポータル データベースのホスト コンピュータにコピーします。
2. ワークフロー データベースのホスト コンピュータで、Oracle Enterprise Manager Console を開きます。
3. ディレクトリを、ワークフロー スキーマ スクリプトの格納場所 (`<install_root>\ptworkflow\6.2\sql\oracle9.2` または `<install_root>\ptworkflow\6.2\sql\oracle10`) に変更します。
4. SQLPlus を起動します。
5. ワークフロー データベース ユーザーとしてワークフロー データベースのインスタンスにログインします。ワークフロー データベース ユーザーについては、[3-4 ページの「Oracle 上でのテーブルスペースおよびデータベース ユーザーの作成」](#)を参照してください。
6. `@create_schema.sql` と入力して `create_schema` スクリプトを実行します。
7. スクリプトの実行後、ワークフローのテーブルスペースを開き、スキーマのテーブルが正しく作成されていることを確認してください。

カーソルの最大数を増やすには、次の手順に従います。

1. データベースの管理者として、Oracle Enterprise Manager Console にログインします。
2. ワークフローのインスタンスを選択します。
3. **[Configuration]** をクリックします。
4. **[All Initialization Parameters]** ボタンをクリックします。
5. オープン カーソルを見つけて、値を 300 から 10,000 に変更します。

## Publisher 移行パッケージのインポート

`publisher.pte` ファイルをインポートすると、ウェブ サービス、コンテンツ ソース、ビルトイン ポートレットなど、Publisher で使用するポータル オブジェクトが作成されます。

`publisher.pte` ファイルを移行するには、次の手順に従います。

1. 管理者ポータルにログインします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン メニューから **[移行 - インポート]** を選択します。
3. **[参照]** をクリックし、`<install root>\ptcs\6.2\serverpackages\` にある `publisher.pte` を探します。**[開く]** をクリックします。
4. **[Load Package]** をクリックします。
5. **[Overwrite Remote Servers]** の横にあるチェック ボックスをオンにします。
6. **[終了]** をクリックします。

## Plumtree Publisher およびワークフローの起動

Publisher サービスを起動する前に、Search Service およびドキュメント リポジトリ サービスが実行中であることを確認してください。

### Windows の場合

サービス コントロール マネージャから、NT サービスである Plumtree Publisher サービスを起動します。

または、コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
$ <install base>\ptcs\6.2\bin\service.bat start
```

### UNIX および Linux の場合

コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
$ <install base>/ptcs/6.2/bin/service.sh start
```

デバッグやトラブルシューティングを行う際は、Publisher サービスをバックグラウンドではなくコンソール プログラムとして実行します。これにより、起動メッセージ ( および、エラーがある場合はエラー メッセージ ) がコンソールに直接表示されます。

### Windows の場合

コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
$ <install base>\ptcs\6.2\bin\service.bat console
```

### UNIX および Linux の場合

コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
$ <install base>/ptcs/6.2/bin/service.sh console
```

Windows、UNIX および Linux のいずれの場合も、コンソール画面で [Ctrl] + [C] を押すと、コンソール モードを終了できます。

Publisher サービスを停止するには、次の手順に従います。

### Windows の場合

サービス コントロール マネージャから Plumtree Publisher サービスを停止します。

コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
$ <install base>\ptcs\6.2\bin\service.bat stop
```

### UNIX および Linux の場合

コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
$ <install base>/ptcs/6.2/bin/service.sh stop
```

## Publisher のインストールの確認

Publisher の動作を確認するには、インストールした Publisher に含まれている診断ユーティリティを実行します。

ブラウザで、Publisher の診断ページにアクセスします。

`http://<host>:<port>/ptcs/console/index.jsp`

例：

`http://dev01.plumtree.com:7087/ptcs/console/index.jsp`

その際、前の手順で作成した認証 ID とパスワードを使用してください。エラーが発生しなければ、設定は正常であり、検索やドキュメント リポジトリなどのサポート サービスもすべて正常に動作しているということになります。

また、ワークフローの診断ページにもアクセスできます。

`http://<host>:<port>/wfconsole/`

例：

`http://dev01.plumtree.com:7087/wfconsole`

エラー メッセージを参考にして、設定に関する問題を修復してください。トラブルシューティングに関する情報については、[第 7 章、「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

## 発行済みコンテンツ ポートレットの移行パッケージのインポート



**重要：**このパッケージをインポート する際は、Publisher を実行しておく必要があります。

Publisher 6.2 では、デフォルトのポートレット テンプレートは、言語のサブフォルダに格納されています (**de**、**en**、**fr** など)。コンテンツ サーバー 5.0.x からアップグレードを行った場合、既存のポートレット テンプレートはアップグレードされますが、適切な言語のサブフォルダに移動されません。言語フォルダからポートレット テンプレートを使用できるようにするには、**published\_content\_portlets.ptc** ファイルをインポートする前に既存のテンプレートを削除する必要があります。

ブランディングが含まれていないコンテンツ サーバー 5.0.x のインストール システムでは、6 つのポートレット テンプレートはすべて **Published Content Portlets** フォルダに格納されています。ブランディングが含まれているコンテンツ サーバー 5.0.x のインストール システムでは、**Header**、**Footer**、および **Content Canvas** ポートレットのテンプレートは、**Content Server | Branding** フォルダに格納されており、**News**、**Community Directory**、および **Announcement** ポートレットのテンプレートは、**Content Server | Published Content Portlets** フォルダに格納されています。

5.0.x のポートレット テンプレートを削除するには、次の手順に従います。

1. [ 管理 ] タブで、**Content Server | Published Content Portlet** フォルダを選択します。
2. コンテンツ サーバーの既存のデフォルト ポートレット テンプレートを選択し、[ 削除 ] をクリックします。
3. 必要な場合は、**Content Server | Branding** 中のコンテンツ サーバーのポートレット テンプレートに対し、上記の手順を繰り返します。

発行済みコンテンツ ポートレットの移行パッケージをインポートするには、次の手順に従います。

1. 管理者ポータルにログインします。

2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン メニューから [移行 - インポート] を選択します。
3. [参照] をクリックし、<install root>\ptcs\6.2\serverpackages\ にある **published\_content\_portlets.pte** ファイルを探します。[開く] をクリックします。
4. [Load Package] をクリックします。
5. [終了] をクリックします。

移行が完了すると、「Portlet Templates」という名前の新しいフォルダが Publisher エクスプローラに表示されます。このフォルダには、デフォルトのポートレット テンプレートを構成する Publisher オブジェクトが格納されています。6.0 または 6.1 からアップグレードした場合は、フォルダ名は「Portlet Templates (2)」になります。古い「Portlet Templates」フォルダを削除して、「Portlet Templates (2)」の新しいオブジェクトに任意のカスタマイズを適用し直すことも可能です。古い「Portlet Templates」内のデフォルトのテンプレートは使用できなくなりますが、デフォルトのテンプレートから作成した既存のポートレットは引き続き使用できます。





# 6 コンテンツ サーバーから Publisher へのアップグレード

この章では、古いバージョンのコンテンツ サーバーから Publisher 6.2 にアップグレードする方法について説明します。以下の表は利用できるアップグレード パスと参考資料の一覧です。

アップグレード パス	アップグレード の参考資料
5.x ~ 6.1 から 6.2	<p><a href="#">6-1 ページの「アップグレード手順」</a>の手順に従います。</p> <p>5.x からアップグレードする場合は、ポータル データベース内のウェブ サービス UUID を更新する必要があります。<a href="#">6-4 ページの「ポータル データベースのウェブ サービス UUID のアップグレード」</a>を参照してください。</p> <p>5.x または 6.0 からアップグレードする場合は、<a href="#">6-4 ページの「コンテンツ サーバー 5.x および 6.0 アップグレードの追加情報」</a>を参照してください。</p>
4.x から 6.2	<p>まずコンテンツ サーバー バージョン 5.0.2 以上にアップグレードしてから、Publisher バージョン 6.2 にアップグレードする必要があります。バージョン 5.x の『プラムツリー コンテンツ サーバー用インストールおよびアップグレード ガイド』を参照してください。バージョン 5.0.4 へのアップグレード手順に従います。4.x バージョンへのアップグレード後の作業もすべて行います。5.0.4 バージョンでポートレットが起動することを確認した上で、6.2 へのアップグレードに進みます。</p>

## アップグレード手順

プラムツリー コンテンツ サーバーから Plumtree Publisher にアップグレードするには、次の手順に従います。

1. リリース ノートを参照し、このリリース以前に導入または変更された機能について確認します。
2. インストールの準備手順が済んでいることを確認します。詳細については、[第 3 章、「インストールの準備手順」](#)を参照してください。
3. インストール先のマシンにローカル管理者としてログインします。インストール先として想定されるのは、古いバージョンのコンテンツ サーバーをホストするアプリケーション サーバーです。
4. コンテンツ サーバーをホストするアプリケーション サーバーを停止します。コンテンツ サーバーを引き続き古いアプリケーション サーバーと同じポートで実行する場合は、古いアプリケーション サーバーで使用するポートを変更してポートが衝突しないようにしてください。
5. アプリケーション サーバーでコンテンツ サーバー ptcs ウェブ アプリケーションの導入を解除します。  
ptcs.xml のバージョンを元に戻す場合に備え、ptcs.xml ファイルを削除せずに名前を変更しておくだけでも構いません。Tomcat の場合は、<tomcat home>/webapps フォルダにある ptcs.xml ファイルの名前を変更します。Weblogic や Websphere では、アプリケーション サーバーの管理コンソールを使用して、「ptcs」に相当するウェブ アプリケーションの名前を変更します。  
発行済みコンテンツで古いアプリケーション サーバーを使用しない場合は、そのサービスを無効にするか、または手動で起動するよう設定する必要があります。

6. コンテンツ サーバーと同じアプリケーション サーバーに導入されている発行済みコンテンツを、新しい Publisher アプリケーション サーバーまたはワークフロー アプリケーション サーバーに導入したい場合は、そのコンテンツの導入を解除する必要があります。Tomcat の場合は、**<tomcat home>/webapps** フォルダにある **publishedcontent.xml** ファイルを削除します。Weblogic や Websphere では、アプリケーション サーバー管理コンソールを使用して、「発行済みコンテンツ」に相当するウェブ アプリケーションを削除します。
7. ワークフロー サービスを停止します。
8. 既存のポータル サーバー データベース、コンテンツ サーバー データベース、およびワークフロー データベースのバックアップを取ります。インストールを中止した場合のみ復元を行ってください。
9. 第 4 章、「Publisher のインストール」の説明に従って、Publisher ソフトウェアをインストールします。インストーラの指示に従いマシンを再起動します。再起動しないと PATH 環境変数の変更が反映されず、アプリケーションの導入や起動の際にエラーが発生する場合があります。  
(UNIX および Linux マシンでは再起動は不要です。)



**注意：**デフォルト の発行済みコンテンツの場所と URL の情報を入力しますが、Publisher 6.2 では発行ターゲット およびプレビュー ターゲット はアップグレード 時には変更されません。ポート 番号を始めとする発行ターゲット の変更は、アップグレード が完了した後に Publisher エクスプローラを使用して行います。発行ターゲット を変更する場合は、既存のコンテンツの再発行も必要になります。

10. ワークフロー データベースをアップグレードします。次の表で現在の設定を探し、該当する手順に従います。

コンテンツ サーバー の設定	ワークフロー データベースのアップグレード 手順
コンテンツ サーバー 5.x、6.0、6.1 でワーク フロー データベース がない場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インストーラで入力した情報に基づいて、ワークフロー データベースおよびワークフロー データベース ユーザーを作成します。お使いのデータベースでのデータベースおよびユーザーの作成方法の詳細については、『Plumtree Publisher インストールおよびアップグレード ガイド』を参照してください。</li> <li>• SQL Query Analyzer または SQL Plus にワークフロー データベース ユーザーとしてログインします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ <b>SQL Server の場合：</b>  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\mssql\create_schema.sql</code> スクリプトを実行します。</li> <li>◦ <b>Oracle の場合：</b>            以下のスクリプトを実行します。  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\oracle9.2\create_schema.sql</code>            または  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\oracle10\create_schema.sql</code>            Oracle のバージョンに応じていずれかを選択してください。</li> </ul> </li> </ul>
コンテンツ サーバー 5.x でワークフロー データベースがある 場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お使いのデータベース用の <b>create_schema.sql</b> スクリプトを実行します。</li> <li>• <b>Windows：</b> <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\bin\dbupgrade.bat</code> スクリプトを実行します。</li> <li>• <b>UNIX および Linux：</b> <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\bin/dbupgrade.sh</code> スクリプトを実行します。</li> </ul>

コンテンツ サーバー の設定	ワークフロー データベースのアップグレード 手順
コンテンツ サーバー 6.0.x でワークフロー データベースがある 場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Oracle:</b> 以下のスクリプトを実行します。  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\oracle9.2\upgrade_schema6.1.sql</code>  または  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\oracle10\upgrade_schema6.1.sql</code>。  Oracle のバージョンに応じていずれかを選択してください。  <b>注意:</b> SQL Server 用の <code>upgrade_schema6.1.sql</code> スクリプトはありません。</li> <li>• <b>Oracle および SQL Server :</b> 以下のスクリプトを実行します。  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\oracle9.2\upgrade_schema6.2.sql</code>  または  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\oracle10\upgrade_schema6.2.sql</code>  または  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\oracle9.2\create_schema.sql</code>  お使いのデータベース サーバーに応じていずれかを選択してください。</li> </ul>
コンテンツ サーバー 6.1.x でワークフロー データベースがある 場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Oracle および SQL Server :</b> 以下のスクリプトを実行します。  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\oracle9.2\upgrade_schema6.2.sql</code>  または  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\oracle10\upgrade_schema6.2.sql</code>  または  <code>&lt;install_root&gt;\ptworkflow\6.2\sql\mssql\upgrade_schema6.2.sql</code>  お使いのデータベース サーバーに応じていずれかを選択してください。</li> </ul>

11. 必要に応じて、`<installation_folder>\ptcs\6.2\settings\config` 内の設定ファイルを編集して設定をカスタマイズします。
12. 必要に応じて、`<installation_folder>\common\jre\1.4.2\lib\security` に SSL 証明書を復元します。
13. コンテンツ サーバーのオブジェクトをポータルに登録します。詳細については、[5-2 ページの「Publisher 移行パッケージのインポート」](#)を参照してください。
14. **publisher.pte** ファイルをインポートした後、ドキュメント リポジトリ サービスおよび検索サービスが起動されていることを確認します。確認できたら Publisher を起動します。
15. **published\_content\_portlets.pte** ファイルをインポートします。詳細については、[5-4 ページの「発行済みコンテンツ ポートレットの移行パッケージのインポート」](#)を参照してください。
16. 6.0 または 6.1 からのアップグレードは以上で完了です。5.0x からのアップグレードの場合は、ポータル データベースのウェブ サービス UUID のアップグレードを行います。詳細については、[6-4 ページの「ポータルデータベースのウェブ サービス UUID のアップグレード」](#)を参照してください。



**注意:** 以前の 5.0.x のインストール環境にブランディング リモート サーバーが含まれていた場合、このオブジェクトは、6.2 では使用されていないため、6.0 へのアップグレードの完了後、削除することができます。削除するには、管理階層構造で、**Branding** フォルダを参照し、ブランディング リモート サーバーを削除してください。

## ポータル データベースのウェブ サービス UUID のアップグレード

既存の 5.0.x ポータルおよびコンテンツ サーバー インストール システムには、発行済みコンテンツ ポートレット テンプレート (News ポートレット テンプレート等) およびブランディング ポートレット テンプレート (Header/Footer/Canvas テンプレート等) に対し異なるウェブ サービス オブジェクトが含まれています。Publisher 6.2 は、5 つの異なるウェブ サービスを 1 つのウェブ サービスで置き換えることによってシステムを簡略化します。

5.0x からのアップグレードの最後に、既存のポートレットのウェブ サービス UUID が、新しい Publisher 6.2 の発行済みコンテンツ用ウェブ サービスを指すように設定するスクリプトをポータル データベースに対して実行する必要があります。このスクリプトは、Publisher ポートレットおよびワークフロー ポートレット、およびポートレット テンプレートの統合に直接関連するポータル オブジェクトのみに対し影響をもたらします。

ウェブ サービス UUID をアップグレードするには、次のいずれかのスクリプトを実行します。

- MS SQL Server ポータル データベースでは、SQL Query Analyzer にポータル データベース ユーザーとしてログインし、次の SQL スクリプトを実行します。  
`ptcs\6.2\sql\mssql\portal_upgrade_5.0_to_6.0.sql`
- Oracle ポータル データベースでは、Oracle Enterprise Manager にポータル データベース ユーザーとしてログインして SQL\*Plus を開き、次の SQL スクリプトを実行します。  
`ptcs\6.2\sql\oracle9.2\portal_upgrade_5.0_to_6.0.sql`

## コンテンツ サーバー 5.x および 6.0 アップグレードの追加情報

Publisher 6.2 とバージョン 6.1 より前のコンテンツ サーバーは、以下の点で大きく異なります。

- 導入の簡略化。** Publisher 6.2 では、製品の導入設定が大きく変更されています。Publisher 6.2 をインストールする代わりに、別のアプリケーション サーバーをインストールし、そのアプリケーション サーバーに WAR ファイルを導入すれば、Publisher 6.2 が内蔵されます。これに HTTP 処理や HTTPS 処理に必要なランタイムコンポーネントが含まれているため、別のアプリケーション サーバーは必要なくなります。この変更により、製品のインストールおよび維持が容易になります。
- Plumtree Publisher サービス。** 6.2 をインストール (または 6.2 にアップグレード) すると、Publisher アプリケーションとワークフロー アプリケーションの両方を、単一のサービス (UNIX および Linux では daemon) で起動および停止することが可能になります。このサービスは、Windows ではサービス コントロール マネージャから、UNIX および Linux ではコマンドラインから制御できます。以前のバージョンでは、コンテンツは個別のアプリケーション サーバーに導入され、ワークフローは独立したサービスになっていました。Publisher サービスの起動と停止の詳細については、[5-3 ページの「Plumtree Publisher およびワークフローの起動」](#)を参照してください。
- 単一のポート番号。** 6.2 Publisher サービスは、単一のポート番号で実行されます。以前のバージョンでは、コンテンツ サーバー ウェブ アプリケーションを実行するポート番号と、ワークフロー サーバーを実行するポー

ト番号が別になっていました。6.2 Publisher サービスとワークフロー サービスには、ポート 7087 を使用することをお勧めします。バージョン 6.2 では、インストール後に変更が必要なポート番号設定を格納した `container.conf` ファイルが追加されています。



# 7    トラブルシューティング

この章では、Publisher のインストール時および導入時のトラブルシューティングに関するヒントを提供します。  
この章には次の節が含まれています。

- [7-1 ページの「ログ ファイルの参照」](#)
- [7-1 ページの「データベース設定ファイル」](#)
- [7-2 ページの「Publisher の再設定」](#)
- [7-2 ページの「予期せぬ結果の分析」](#)

## ログ ファイルの参照

インストールに失敗しインストーラを完了することができない場合は、インストーラのエラー メッセージの指示に従ってソフトウェアの依存性に関する問題を修復してください。また、インストーラによって 4 つの個別のログ ファイルがインストール フォルダ (たとえば C:\program files\plumtree) に作成されます。生成されるログ ファイルは以下のとおりです。

- Plumtree\_Publisher\_InstallLog.log
- content\_register.log
- workflow\_register.log
- imageserver\_register.log (Image Server のインストール時のみ)

インストール後に問題が発生した場合は、<install\_root>\ptcs\6.2\logs\service.log ファイルを参照し、問題の診断および修復を行ってください。

また、Publisher およびワークフローの診断ページを使って、インストールのトラブルシューティングを行うこともできます。

Publisher 診断ページの場所は次のとおりです。

`http://<host>:<port>/ptcs/diagnosticTests.jsp`

たとえば次のように指定します。

`http://dev01.plumtree.com:7087/ptcs/diagnosticTests.jsp`

ワークフロー診断ページの場所は次のとおりです。

`http://<host>:<page>/wfconsole`

たとえば次のように指定します。

`http://dev01.plumtree.com:7087/wfconsole`

## データベース設定ファイル

Publisher のインストーラを実行した際に入力した情報は、2 つの Publisher データベース設定ファイルに設定されています。インストール後にデータベースの設定を変更する必要がある場合は、これらのファイルを編集すること

ができます。これらのファイル名は、**database.content.properties** および **database.portal.properties** で、次のディレクトリに格納されています。

```
<install_root>\plumtree\ptcs\6.2\settings\config\
```

同様に、Publisher のインストーラを実行した際に入力した情報は、ワークフロー データベース設定ファイルに設定されています。このファイル (**application.conf**) は次のディレクトリにインストールされています。

```
<install_root>\plumtree\ptworkflow\6.2\settings\config
```

## Publisher の再設定

インストール確認ツールによって設定エラーが通知された場合、[付録 A](#) の設定用ワークシートに記録した設定内容を確認した上で、インストーラを再度実行してください。

## 予期せぬ結果の分析

下記の表では、Publisher のインストール時および導入時に発生する可能性のある予期せぬ結果の症状と解決方法を説明します。

症状	解決案
Publisher を起動すると、ポートレットにタイムアウトが発生してエラーが表示される。ほとんどの場合このエラーは、Publisher をインストールした後初めて起動した際に発生します。	アプリケーション サーバー内の Java Server Pages (.jsp ページ) が、Publisher を初めて起動する前にプリコンパイルされていなかったことが原因です。 エラーを解決するには、ページを更新してください。
ネットワーク共有フォルダにマップされたドライブを発行先としてコンテンツを発行した際にエラーが発生する。	発行先には、マップされたドライブではなく UNC パスを指定してください。詳細については、ナレッジベース記事番号 DA_130773、「Problem Publishing Content Server Content To a Mapped Drive」を参照してください。
Plumtree Publisher サービスが起動しない。	Plumtree Publisher が接続しようとしたポート 1098 がすでに使用されていることが考えられます。ポートは、次の手順で変更できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>o <code>&lt;install root&gt;\ptcs\settings\config\container.conf</code> をテキスト エディタで開きます。</li> <li>o <code>plumtree.container.jboss.jndi.rmi.port=1098</code> の部分を変更して、未使用のポート (たとえば 10098) 指定します。</li> <li>o Plumtree Publisher サービスを再起動します。</li> </ul>



症状	解決案
<p>ポート衝突エラー、ポート使用中エラー、BindException</p>	<p>HTTP および HTTPS のポート番号は <b>&lt;PT_HOME&gt;/ptcs/6.2/settings/config/service.conf</b> に設定されています。</p> <p><b>service.conf</b> の http 設定および https 設定を、利用可能なポートの値に編集します。設定ファイルの変更を有効にするには、サービスを再起動する必要があります。サービスのポート番号を変更する場合は、ポート番号を参照している可能性があるすべてのウェブ サービスやリモート サーバーの設定についても、対応する変更が必要ですのでご注意ください。</p>
<p>メモリ消費エラー、メモリ超過エラー</p>	<p>サービス JVM が使用できるメモリの最大量 (MB) は、<b>&lt;PT_HOME&gt;/ptcs/6.2/settings/config/service.conf</b> ファイルに設定されている <code>wrapper.java.maxmemory</code> プロパティで管理されています。たとえば、次の行は最大メモリが 1GB に設定されていることを示します。</p> <pre>wrapper.java.maxmemory=1024</pre> <p>この設定は、Java の実行ファイルによって使用される <code>-Xmx</code> パラメータに直接対応しています。ほとんどの構成では、設定ファイルのデフォルト設定を変更する必要はありません。大規模な製品構成、特に専用のホスト マシンにサービスをインストールしている場合は、この値をできるだけ高く設定する必要があります (1024 や 1536 など)。ただし、必ずホストマシンの物理 RAM の容量より低い値にしなければなりません。</p>



# A 導入設定ワークシート

コンポーネント	設定	独自の設定
Publisher	<b>Publisher の URL</b> Publisher 用の完全修飾ドメイン名、ポート番号、および仮想ディレクトリを設定します。 例：http://ptcs-host.mycompany.com:7087/ptcs	
	<b>発行済みコンテンツの URL</b> コンテンツを発行する先の完全修飾ドメイン名、ポート番号、および仮想ディレクトリを設定します。 例：http://ptcs-host:7087/publishedcontent	
	<b>発行済みコンテンツのパス</b> 発行されたコンテンツを格納するフォルダへのパスを指定します。Publisher にローカルで発行済みコンテンツを格納しない場合は、UNC パスを指定できます。 例： \\<servername>\<sharename>\<directory>	
	<b>検索インデックス用の一時ディレクトリ</b> インデックス時に使用する一時ディレクトリを設定します。 例： C:\Program Files\plumtree\ptcs\6.2\tmp	
Publisher データベース	<b>SQL Server</b> データベース サーバーのホスト名 例：dbhost.company.com データベース サーバーのポート 例：1433 データベース名 例：ptcsdb データベース ユーザーおよびパスワード 例：plumdbuser / plumtree <b>Oracle</b> データベース サーバーのホスト名 例：dbhost.company.com データベース サーバーのポート 例：1521 データベース SID 例：ptcsdb データベース スキーマ ユーザーおよびパスワード 例：plumdbuser / plumtree	

コンポーネント	設定	独自の設定
ワークフロー	ワークフローの URL ワークフロー サービス用の完全修飾ドメイン名、ポート番号、および仮想ディレクトリを設定します。 例 : http://ptcs-host:7087/workflow	
ワークフロー データベース	<b>SQL Server</b> データベース サーバーのホスト名 例 : db-host.company.com データベース サーバーのポート 例 : 1433 データベース名 例 : workflowdb データベース ユーザーおよびパスワード 例 : workflowdbuser <b>Oracle</b> データベース サーバーのホスト名 例 : db-host.company.com データベース サーバーのポート 例 : 1521 データベース SID 例 : workflowdb データベース スキーマ ユーザーおよびパスワード 例 : workflowdbuser	
Image Service	Image Service フォルダ ポータルにインストールしたイメージ サービスへのパスを指定します。 例 : C:\Program Files\plumtree\ptimages	
発行ターゲット	発行済みコンテンツのフォルダと URL を選択します。 発行済みコンテンツの URL : http://<computer_name>:<port>/publishedcontent Windows の場合の発行済みコンテンツ フォルダ : C:\Program files\plumtree\ptcs\publishedcontent UNIX および Linux の場合の発行済みコンテンツ フォルダ : /opt/plumtree/ptcs/publishedcontent	
Search Service	Search Service のホスト名およびポート ポータル検索サービスの完全修飾ドメイン名およびポート番号を指定します。 ホストの例 : searchhost.mycompany.com ポートの例 : 15244	

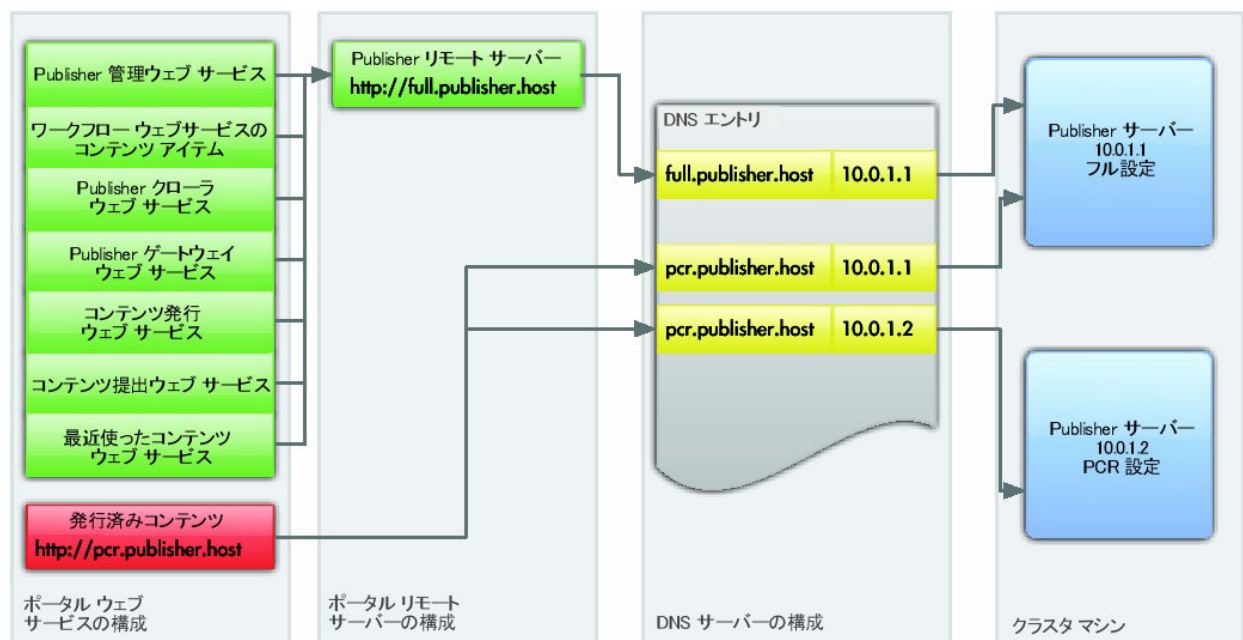
コンポーネント	設定	独自の設定
ポータル	認証 ID およびパスワード ポータルが <b>Publisher</b> に接続する際に使用するユーザー名とパスワードを設定します。	
ポータル データベース	ポータル データベースの下記のプロパティを指定します。 <b>SQL Server</b> データベース サーバーのホスト名 例 : db-host.company.com データベース サーバーのポート 例 : 1433 データベース名 例 : plumdb データベース ユーザーおよびパスワード 例 : plumdbuser <b>Oracle</b> データベース サーバーのホスト名 例 : db-host.company.com データベース サーバーのポート 例 : 1521 データベース SID 例 : PLUM データベース スキーマ ユーザーおよびパスワード 例 : plumdbuser	
ドキュメント リポジトリ サービス	ドキュメント リポジトリ サービスのホスト名およびポート ポータル ドキュメント リポジトリ サービスの完全修飾ドメイン名およびポート番号を指定します。 ホストの例 : doc-repository.mycompany.com ポートの例 : 8020	
SMTP サーバー	<b>Publisher</b> の管理イベントの通知を送信するための SMTP ホスト名およびメール アドレスを指定します。 ホストの例 : mail.company.com メール アドレスの例 : admin@company.com	



## B クラスタリング

この章では、Plumtree Publisher 6.2 がサポートしている限定的なクラスタリングについて説明します。クラスタリングを行うことで、発行済みコンテンツの可用性を高めることができます。クラスタ化された構成をインストールするには、2 台目のマシンにも Publisher をインストールする必要があります。次に、仮想ホストを設定して、ポータルが複数のマシンの発行済みコンテンツ ウェブ サービスにアクセスするようにします。

次の図に、可用性の高い発行済みコンテンツ設定の概要を示します。図 1 では、複数の IP アドレスが、1 つのマシンドメイン名にマップされています (「`pcr.content.host`」が「仮想ホスト」として参照されています)。



**注意:** Publisher の発行済みコンテンツがまだない場合は、Publisher の完全インストールで Publisher ポートレットを作成し、ページに追加して正しく表示されるかどうか検証することができます。このポートレットは、発行済みコンテンツ リダイレクタを設定した後に、引き続き発行済みコンテンツにアクセスできるかどうかを検証する際にも使用できます。

### 個別の発行済みコンテンツを Publisher から完全設定で導入する手順

発行済みコンテンツの導入をデフォルトの場所から解除する

1. 発行済みコンテンツの導入をデフォルトの場所から解除するには、`<plumtree>/ptcs/container/conf/jboss.web/localhost/publishedcontent.xml` を削除します。

2. 発行済みコンテンツを他のウェブ サーバーに導入します。
3. Publisher エクスプローラで発行ターゲットを変更します。

## 2 台目のマシンへの Publisher のインストール

**注意：**これは、別のマシンへのインストール手順です。

インストーラを実行します。詳細については、『Plumtree Publisher インストールおよびアップグレード ガイド』を参照してください。

1. [Configuration Panel] で [Published Content Configuration] を選択します。
2. [Publisher Database and Portal Database] ページでは、Publisher の完全インストールの際に入力したものと同じ、Publisher とポータル データベースの情報を使用します。
3. [ 認証情報 ] では、Publisher の完全インストールの際に入力したものと同一認証情報を使用します。

## プラムツリー ポータルの設定

1. 仮想ホストを設定します。仮想ホストは、Publisher の完全インストールおよび [Published Content Configuration] インストールにマップする必要があります。DNS サーバーまたはレジストリを使用できます。詳細については、プラムツリー ナレッジベースの記事「10613: INFO: MPPE Load Balancing: Frequently Asked Questions (FAQ)」を参照してください。
2. 発行済みコンテンツ ウェブ サービスのポートレット URL を変更します。
  - a. ポータルのホームページで [ 管理 ] をクリックします。
  - b. [ 管理オブジェクト ディレクトリ ] で Publisher ウェブ サービスを作成したフォルダをクリックします。
  - c. [ 管理 ] ページで発行済みコンテンツ ウェブ サービスをクリックします。

**注意：**「http://」または「https://」で始まる値をテキスト ボックスに入力すると、URL プレフィックスは無視されます。
  - d. [HTTP 設定] で仮想ホストへの完全な URL を入力し、ポートレット URL を変更します。たとえば、`http://<virtual_host_name>:<virtual_host_port>/ptcs/published_content_redirect.jsp` のようにします。
  - e. Published Content Configuration Publisher を起動します。

**Windows：** サービス コントロール マネージャから、NT サービスである Plumtree Content Redirector サービスを起動します。コマンドラインで、`$<install_root>\ptcs\6.2\bin\service.bat start` を実行します。

**UNIX および Linux：** コマンドラインで、`$<install_base>/ptcs/6.2/bin/service.bat start` を実行します。



**注意：** Published Content Configuration を検証するには、まず、`http://<pcs_host_name>:<port>/ptcs/console/index.jsp` の診断ページを確認します。すべての値の状態が「NOT ENABLED」または「OK」と表示されている必要があります。次に、発行済みコンテンツ ポートレットに引き続きアクセスできるかどうかを確認します。Publisher の完全設定をシャットダウンした場合は、発行済みコンテンツ ポートレットが引き続き表示されるはずですが、



# C インストーラの properties ファイル

プラムツリーのインストーラに、properties ファイルを引数として渡すことによって、ポータルを導入に関する様々なプロパティを設定することができます。これには、インストーラが実行されるディレクトリにこのファイルが存在する必要があります。ポータルのプロパティを設定するために properties ファイルを使用しなかった場合、インストーラは実行したディレクトリに **PlumtreePublisher\_v6-2.properties** というファイルを作成します。このファイルを他のホスト コンピュータにコピーし、それらのコンピュータでインストーラを実行する際にこのファイルを使用することができます。そうすることによって、ファイルの中のポータル プロパティについて一貫性を確保することができます。以下の節では、これらのプロパティについて説明します。



**注意：**properties ファイルはインストール時にのみ使用されるもので、Publisher が実行時に使用する設定には反映されません。Publisher を実行するために、あるいは保守するためにファイルを使用する必要はありません。

以下の表では、properties ファイルの内容の例を示します。

表 C-1：

システムの設定 / プロパティ	値の例
PRIMARY_IMAGE_SERVER_URL	http://<computer_name>:<port>/imageserver
SEARCH_SERVER_HOST	<computer_name>
SEARCH_SERVER_PORT	15244
PUBLISHED_CONTENT_URL	http://<computer_name>:<port>/publishedcontent
PUBLISHED_CONTENT_PATH	<b>Windows:</b> C:\Program files\plumtree\ptcs\publishedcontent <b>Solaris:</b> /opt/plumtree/ptcs/publishedcontent
AUTHENTICATION_ID	<authenticationid>
AUTHENTICATION_PASSWORD	<plumtree>
DOCUMENT_REPOSITORY_HOST	<computer_name>
DOCUMENT_REPOSITORY_PORT	8020
PORTAL_DB_HOST	<computer_name>
PORTAL_DB_PORT	1433
PORTAL_DB_NAME	plumdb
PORTAL_DB_LOGIN	plumdbuser
PORTAL_DB_PASSWORD	<empty_field>
TEMPLATING_ENGINE_DB_HOST	<computer_name>
TEMPLATING_ENGINE_DB_PORT	1433

表 C-1:

システムの設定 / プロパティ	値の例
WORKFLOW_DB_HOST	<computer_name>
WORKFLOW_DB_PORT	1433
WORKFLOW_DB_NAME	workflowdb
WORKFLOW_DB_LOGIN	workflowdbuser
WORKFLOW_DB_PASSWORD	<empty_field>

# 索引

## A

[Application Host and Port] ページ, 4-1  
application.conf ファイル, 7-2  
[Authentication Information] ページ, 4-3

## C

[Choose Components] ページ, 4-1  
[Configuration] ページ, 4-1  
[Custom Published Content Configuration] ページ, 4-2

## D

database.content.properties ファイル, 7-2  
database.portal.properties ファイル, 7-2  
[Default Language] ページ, 4-3  
[Document Repository Service Host and Port Number] ページ, 4-2

## F

Foundation  
    互換性要件, 3-2  
    ポータルも参照

## I

Image Service  
    定義, 2-1  
    デフォルトの接続場所, 4-2  
[Image Service] ページ, 4-2  
[Installation Folder] ページ, 4-1

## L

[License Agreement] ページ, 4-1  
Linux  
    Publisher およびワークフローの起動, 5-3  
    Publisher サービスの起動, 5-3  
    Publisher サービスの停止, 5-3

## O

Oracle  
    Publisher のデフォルト ポート接続, 4-2  
    テーブルスペースおよびデータベース ユーザーの作成, 3-4  
    ポータル サーバーのデータベース接続, 4-2  
    ワークフロー データベース スキーマの作成, 5-2  
    ワークフロー データベースのデフォルト ポート接続, 4-2

## P

[Portal Server Database Connection Information] ページ, 4-2  
[Portal Server Database] ページ, 4-2  
[Published Content] ページ, 4-2  
Publisher  
    2 台目のマシンへのインストール, B-2  
    移行パッケージのインポート, 5-2  
    インストール, 4-1  
    インストールの確認, 5-4  
    概要, 2-1  
    起動, 5-3  
    起動に関する警告, 5-1  
    言語サポート, 2-2  
    コンテンツ サーバーからのアップグレード, 6-1  
    診断ページの場所, 7-1  
    追加アップグレード情報, 6-4  
    提供されるウェブ サービス, 2-1  
    発行済みコンテンツの個別導入, B-1  
    ホスト コンピュータ要件, 3-1  
[Publisher Connection Information] ページ, 4-2  
[Publisher Database] ページ, 4-2  
Publisher サービス  
    Linux での停止, 5-3  
    UNIX での停止, 5-3  
    Windows での停止, 5-3  
    起動エラー, 7-2  
    コンソール プログラムとしての起動, 5-3  
Publisher データベース  
    SQL Server 上での作成, 3-3  
    初期サイズの推奨値, 3-3  
    定義, 2-1

## S

[Search Service Host and Port Number] ページ, 4-3  
[SMTP Mail Server Information] ページ, 4-3  
SQL Server  
    Publisher のデフォルト ポート接続, 4-2  
    データベースの作成, 3-3  
    データベース ユーザーの作成, 3-3  
    ポータル サーバーのデータベース接続, 4-2  
    ワークフロー データベース スキーマの作成, 5-1  
    ワークフロー データベースのデフォルト ポート接続, 4-2

## U

UNIX  
    Publisher およびワークフローの起動, 5-3  
    Publisher サービスの起動, 5-3  
    Publisher サービスの停止, 5-3

## W

### Windows

Publisher およびワークフローの起動, 5-3

Publisher サービスの起動, 5-3

Publisher サービスの停止, 5-3

[Workflow Database Connection Information] ページ, 4-2

[Workflow Database] ページ, 4-2

## い

移行パッケージ、インポート, 5-2

インストーラのプロパティ ファイル, C-1

インストール

エラーへの対処, 7-1

確認, 5-4

必要なユーザー権限, 3-2

インストール手順, 4-1

## う

ウェブ サーバー、目的, 2-1

ウェブ サービス、提供, 2-1

## え

エラーと解決策, 7-2

## お

オブジェクト、作成に必要なユーザー権限, 3-2

## き

起動エラー, 7-2

## く

クラスタリング, B-1

## け

言語サポート, 2-2

検索、目的, 2-1

## こ

互換性要件、Foundation, 3-2

コマンドライン、使用している Publisher サービスの停止, 5-3

コンソール モード、UNIX および Linux での終了, 5-3

コンテンツ

完全設定で Publisher から導入する手順, B-1

デフォルトの場所からの導入解除, B-1

コンテンツ発行エラー, 7-2

## さ

サービス コントロール マネージャ、Publisher サービスの停止, 5-3

## し

診断, 5-4

## そ

ソフトウェア要件, 3-1

## て

データベース

Publisher データベースを参照

ワークフロー データベースを参照

データベース サーバー

必要なユーザー権限, 3-2

ホスト コンピュータ要件, 3-2

データベース スキーマ

Oracle でのワークフローによる作成, 5-2

SQL Server でのワークフローによる作成, 5-1

データベース ユーザー

Oracle 上での作成, 3-4

SQL Server 上での作成, 3-3

ワークフローでの作成, 3-3

テーブルスペース、作成, 3-4

## と

ドキュメント リポジトリ サービス, 2-1

## に

認証 ID のデフォルト, 4-3

## は

ハードウェア要件, 3-1

発行済みコンテンツ設定、検証, B-2

発行済みコンテンツ ポートレットの移行パッケージ、インポート, 5-4

## ふ

ブラウザ要件, 3-2  
ブランディング、機能に関する注意点, 2-2  
ブランディング リモート サーバー、削除に関する注意, 6-4  
プロパティ ファイル, C-1

## ほ

ポータル  
  設定, B-2  
  Foundation も参照  
ポータル データベース、必要なユーザー権限, 3-2  
ポート衝突エラー, 7-3  
ポートレット テンプレート  
  削除, 5-4  
  デフォルト テンプレートの場所, 5-4

## め

メモリ消費エラー, 7-3  
メモリ超過エラー, 7-3

## ろ

ログ ファイル, 7-1

## わ

ワークフロー  
  Oracle でのデータベース スキーマの作成, 5-2  
  SQL Server でのデータベース スキーマの作成, 5-1  
  起動, 5-3  
  初期データベース サイズの推奨値, 3-3  
  診断ページの場所, 7-1  
  定義, 2-1  
  データベース ユーザーおよびデータベースの作成, 3-3  
ワークフロー データベース、作成, 3-3

